

卒業を前に思うこと

坂田 真人 (平15)

私は現在、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の博士前期(修士)課程2年で、来年3月には卒業を控えています。長崎に来てもう5年以上経つのかと思うと、本当にあっという間であったような気もするし、いろいろな事があって長かったなあという気もします。朝夕の風が日に日に冷たく感じられる秋の日に、その長かったり短かったりの大学生活を振り返ってみました。

5年前の春、合格発表を友達と見に来てアメフト部に胴上げされてから、私の大学生活は始まりました。それから当時の修士2年であった目良国寛先輩の勧誘を受けて、後の私の大学生活の中心となる野球部に入部しました。目良先輩との出会いがなければ野球部に入ることはなかったし、私の大学生活はつまらないものになっていたと思います。とにかく私の学部での4年間の思い出は、ほとんど野球のことばかりです。キャッチボールもまともに出来なかった私を、一から指導してくれた学年が一つ上の鈴木秀明先輩には大変感謝しています。毎年ゴールデンウィークに開催される九薬連大会に向けて、朝早くからみんなで練習したのも早起きはずらかったけど楽しかったです。初めての九薬連大会の試合(対熊大戦)で、最終回に代打で出してもらって三球三振した日から2年後の最後の大会で、同じピッチャーからホームランを打てたことは今でも忘れられません。結局一回も優勝することは出来ませんでした。みんなやった朝練や合宿、一緒に味わった勝利の味や敗戦の悔し涙、練習方法や考え方の違いでの衝

突などいろいろあったけど、何より最高のメンバーで野球が出来たこと、これが私にとって一番の思い出です。

ここまで野球のことばかりで、他に何もなかったのかということそうではありません。やはり学生の本分である勉強も大変でした。どの科目も大変難しく、単位をとることは私にとって容易ではありませんでした。各科目の担当の先生方や当時の学務係の五島博史氏には多大なご迷惑をおかけしてしまい、この場をお借りして?お詫び申し上げます。こんな学生であった私も、何とか国家試験を乗り切り、今では薬品生物工学研究室の修士2年です。これから修論に向けてラストスパートと頑張っている最中です。

私は、来春長かった学生生活を終え、社会人として新たなスタートを切るわけですが、私より2年前から社会人として働いている同級生も少なくありません。そのような友達や様々な分野で現在活躍されている先輩方に、いろいろとアドバイスやご指導を受けながら、早く一人前の社会人にとっています。同級生の皆さん、お元気でしょうか?私はこのような感じで相変わらずの人間です。私たちの学年は個性的な人たちが多かったので(私も人に言えないですが)、久しぶりに皆さんと会ってみたいです。出来るだけ近いうちに同窓会したいですね!「坂田では出来ないだろうからオレが開いてやる!」という幹事さん募集中です(笑)。皆さんと逢える日を楽しみにしています。

慰霊碑の掃除を終えて

永川 貴 (平16)

原爆記念日の一日前である8月8日、医学部の裏にあるぐびろが丘の慰霊碑の掃除がありました。今年も、同窓会長の西脇先生を先頭に約25名の学生が落ち葉を拾ったり、側溝の土をあげたりして慰霊碑周辺をきれいにしました。

このぐびろが丘には当時射的場があり、防空壕として使用していたとのことでこの慰霊碑は、原爆によりこの壕周辺で被爆した先輩方の死を悼んで建立されたということです。清掃終了後、慰霊碑に線香をあげ田崎和之先生(昭22)のお話をお聞きしました。先生は、お話の中で富田恒夫先生(昭20)の文章を朗読され、原爆落下当時の殺伐と

した様子や戦争の悲惨さを私たちに伝えてくださいました。

私は、戦争について映画や教科書などを通してしか知らないため、なかなか実感がわかず、日々の生活が平和なことは当たり前だと思って過ごしています。しかし、戦争を体験された方のお話を聞きすると、戦争の怖さや悲惨さをよりリアルに知ることができ、今の生活がいかに恵まれたものであるかということを実感できました。こうした体験は普段なかなかできないため、私にとって貴重な体験となり、来年以降も積極的に参加したいと思います。

平成16年度 九葉連を終えて

ト部 奏 (学部4年)

今年も5月1日～3日に熊本大学において九葉連が行われました。今回の参加校は、福岡大学薬学部、第一薬科大学、熊本大学薬学部、そして長崎大学薬学部の4校で、準硬式野球、硬式テニス、軟式テニス、サッカー、バスケットボール、バレーボールの6球技が行われました。4年の僕にとって今回は最後の大会となりました。僕は、バスケットボール部と準硬式野球部に所属していたので、競技初日の5月2日にバスケットボール、翌日の5月3日に野球の試合に出場しました。

バスケットボールは今年も例年と同じように第一薬科大学、熊本大学、長崎大学の3校の総当り戦で争われ、長崎大学は第1試合は熊本大学、第2試合は第一薬科大学と対戦しました。僕は過去2回九葉連でバスケットボールの試合に出場したことがありましたが、その中で1勝も挙げる事ができませんでした。今年は4年が多く、仲もよくて、個人的にすごく居心地のいいチームで、ぜひ九葉連で1勝を挙げたいと思っていました。第1試合の熊本大学戦は序盤からリードを許す厳し

い立ち上がりになってしまいました。熊本大学はディフェンスが厳しく、なかなかいい形でシュートまで持っていきませんでした。僕たちもメンバーチェンジをして何とか流れを掴もうとしましたが、なかなかうまくいかず、前半で20点強の差がついてしまいました。後半、必死に追い上げはしましたが、結局この点差がひびいて11点差で敗れてしまいました。そして第2試合の第一薬科大学戦は序盤は点差も開くこともなく、悪くない立ち上がりでした。しかし、第2、3クォーターになると、なかなか点数が入らなくなり、徐々に点差が開いてきました。第3クォーター終了時にはまた20点強のリードを奪われてしまいました。最終第4クォーター、初めは全員4年生で試合に臨みました。このチームのベストメンバーではなかったけど、最後に同級生5人で一緒にプレイができたことがとても嬉しかったです。第4クォーターでは最後の粘りをみせましたが、熊本大学戦と同様に11点差で敗れてしまいました。第3試合で熊本大学が第一薬科大学を接戦の末破り、

昨年に続き2連覇を達成しました。女子も健闘しましたが、2敗で3位という結果に終わってしまいました。念願の九葉連初勝利は叶いませんでしたが、すばらしいメンバーと一緒にバスケットボールができたことを誇りに思います。

野球は福岡大学、第一薬科大学、熊本大学、長崎大学の4校によるトーナメント戦で争われ、5月2日に準決勝の2試合、5月3日に決勝、3位決定戦がそれぞれ行われました。僕が入学してから3回大会がありましたが、すべて2位という悔しい思いをしてきたので今年こそ優勝したいと思っていました。5月2日の準決勝では福岡大学と対戦し、16対6で6回コールド勝ちし、決勝で熊本大学と対戦することになりました。これは2年連続して同じ顔合わせで因縁の戦いでした。この試合、僕は6番セカンドで出場しました。試合は序盤、熊本大学のペースで始まりまして。2回に2点、3回に3点を入れられ5回終了時までに5対2とリードされてしまいました。そして6回表、熊本大学は大きな大きな3点を入れ、スコアは8対2と6点差に開き、第3者からみれば勝負あったかに思われました。しかし、リードされている僕たちからすればこのまま終われるはずはありませんでした。6回裏、今までが嘘のように打線がつながり、相手のエラーも重なって、この回一挙6点を奪い、なんと同点に追いつきました。さらに7回、熊本大学は無得点に終わりましたが、僕たちは前の回の勢いが衰えず、2点を加え、10対8とついにこの試合初めて僕たちがリードを奪いました。7回が終わり、僕はそのまま絶対に勝てると思っていました。8回、熊本大学は執念で1点を返してきました。その裏、僕たちは追加点を奪うことができず、10対9という1点リードの状態最終回を迎えることになりました。9回表、1人目のバッターはサードゴロでしとめましたが、

次のバッターのときエラーが重なり、ノーヒットで10対10の同点に追いつかれてしまいました。次のバッターをショートフライでアウトにし、ツーアウトになりましたが、ここから連打を浴びてしまい、この回に一挙に4点を奪われ、13対10と3点差をつけられてしまいました。チームのキャプテンでもあり、この試合、ずっと投げてきたエースは最終回のマウンドで涙を浮かべていました。おそらく、ものすごいプレッシャーと恐怖心を感じていたと思われます。しかし、9回表の最後のバッターにはストレートのみで真っ向勝負し、三振で打ち取りました。このピッチングにキャプテンの大学での野球人生のすべてが集約されていたように感じました。9回裏、ツーアウトから2人のランナーを出したものの、最後は1番バッターの大飛球を熊本大学のレフトがファインプレーでキャッチし、ゲームセット。息づまるような乱打戦に幕が下ろされました。僕たちのチームはほとんどのメンバーが泣いていました。しかし、僕は涙が出ませんでした。確かにすごく悔しかったけど、なぜかすっきりとした気持ちになっていました。本当に最後の試合で最高の試合ができたと確信しています。こんな経験をさせてくれたチームのメンバー全員に感謝しています。準硬式野球部に入部してからいろいろあったけど、最後まで続けて本当に良かったと思いました。

今回の九葉連、長崎大学は全体的に良い成績をあげることはできませんでした。しかし皆ベストを尽くしていたと思います。九葉連では勝敗はもちろんですが、その結果が生まれるまでの過程も醍醐味の1つだと思います。次回の九葉連からは応援する立場になりますが、後輩の皆には個人が、そしてチーム全体がベストを尽くし、いい成績を挙げるだけでなく、すばらしい思い出も作ってもらいたいと願っています。